

京都市平成30年度当初予算案の概要

1 予算編成に当たっての考え方

現下の課題にしっかりと対応しつつ、「未来を展望し挑戦する予算」を編成

- ・ 今年、明治維新 150 年、市役所開庁（自治権獲得）120 周年、更に、京都が都市の理念として掲げた「世界文化自由都市宣言」40 周年
- ・ 150 年前、千年を超えて続いた都の地位を事実上失う都市存亡の危機の中で、先人達は、「京都をこのまま衰退させてはならない」と立ち上がり、全国初の番組小学校創設、全国初の芸術大学、工業高校の創設により、人づくり、文化芸術を基軸としたものづくりに尽力。更に琵琶湖疏水や日本初の水力発電所、市電開業など、今に至る京都の礎となる先進的な取組に次々と挑戦
- ・ 40 年前、市会の議決を得て世界文化自由都市を宣言して以来、宣言をあらゆる政策の最上位の都市理念とし、「優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市」実現に向け、文化を基軸とした都市経営を推進
- ・ 世界規模で格差の拡大、紛争の多発、環境破壊が進行する今こそ、先人達の志と偉業に学び、文化を基軸に人づくり、観光、福祉、まちづくりなど、あらゆる政策分野を融合し、京都の持つ潜在力を最大限に引き出す絶好の機会
- ・ この好機を捉え、厳しい財政状況の中でも決して守りに入ることなく、京都の未来のための先行投資を積極的に推進
- ・ 徹底した行財政改革により財源を捻出し、市民生活の安心安全、全国トップレベルの福祉、教育、子育て支援にしっかりと予算を確保すると同時に、「文化力」をはじめとする京都の強みを最大限に活かした成長戦略、宿泊税を財源とした「住んでよし訪れてよし」のまちづくりなど、京都の今と未来に真に必要な施策を展開
- ・ これらにより、京プラン実施計画第 2 ステージに掲げる 307 施策全てを着実に前進させ「未来を展望し挑戦する予算」を編成

日本の“こころの創生”を牽引する「世界の文化首都・京都」の実現

文化庁移転を踏まえた、文化を基軸とした総合的な施策の推進

歴史の節目に、市民とともにその意義を共有し、学び、未来に活かす取組

1 **新規** 世界文化自由都市宣言40周年事業 600万円

文化による世界との交流と平和の実現を、本市の都市理念として掲げた「世界文化自由都市宣言」40周年を機に、改めて宣言の意義や世界文化自由都市・京都の使命等について、市民と共有するとともに国内外に発信

2 **新規** 明治150年・京都のキセキ・プロジェクト ～市民の偉業が生んだ奇跡、歩んだ軌跡～ 2億1,800万円

明治維新による人口の激減、都市衰退の危機に際し、市民ぐるみで困難に挑戦し、未来を担う人を育て、文化振興に取り組み、産業を興し、今日の京都発展の礎を築いた、京都の先人の歩みとその意義を見つめなおし、今と未来に活かす多彩な事業を展開

○明治改元記念事業（記念シンポジウムなど）	1,500万円
○明治の京都の精神と知恵を今に活かす事業 （明治期の取組について学んだ学生による提言）	300万円
○琵琶湖疏水通船の本格運航及び疏水沿線の魅力創造・発信	4,400万円
○明治産業遺産としての梅小路チンチン電車再生事業	3,200万円
○明治150年記念京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展	200万円
○学校歴史博物館 明治150年・開館20周年記念特別展	1,200万円
○「京都の御大礼ー宮廷文化のみやびー」展覧会（仮称）	500万円
○明治・京都の精神文化に触れる観光メニューの造成・発信	300万円
○明治150年記念伝統産業活性化支援事業 府市協調	400万円
	など

文化によるひとづくり

3 **新規** 新・文化庁の機能強化との連携事業 3,800万円

文化庁と連携し、伝統芸能文化・生活文化の継承・普及に向けた取組の実施や、文化芸術による社会的課題の緩和・解決に向けた相談窓口の設置等を実施

4 **充実** 子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出 2,600万円

「伝統産業・文化の担い手育成」の一環として、子どもたちが「ほんもの」の文化芸術を体験する入り口の機会を充実

5 **新規** 「障害者芸術」の活性化と魅力発信 1,000万円

福祉施設や総合支援学校における、文化芸術に触れる・創造する機会の創出や、障害者アートの作品展などを実施し、障害のある方による芸術活動の活性化を図り、社会参加を促進

文化によるまちづくり・地域活性化

6 充実 京町家の保全及び継承に関する取組の充実・強化

3億2,500万円

29年11月に制定した「京都市京町家の保全及び継承に関する条例」に基づき、京都ならではの個性豊かで洗練された景観・文化の象徴である京町家を将来の世代に継承していくための取組を充実・強化

○京町家所有者の保全・継承に係る助成制度の創設・拡充 2億3,800万円

趣のある町並みや生活文化の保全・継承の観点から特に重要であるため重要京町家及び京町家保全重点取組地区に存する京町家（取壊しの事前届出義務の対象）の改修工事に係る助成制度や、重要京町家の維持修繕に係る助成制度を創設するとともに、耐震改修工事に係る助成制度等を充実

○京町家の流通・活用機会の確保 3,300万円

本市が借り上げ、民間事業者を通じて賃貸を行うモデル事業のほか、民間資金による京町家再生ファンドの構築に向けた調査・検討等を実施

○京町家の価値の共有 3,600万円

重要京町家を称えるプレート等の交付や、事業者・専門家及び学校教育向けの京町家に関する教育研修プログラムを新たに作成するほか、京都とパリの大学を中心に、京町家などの歴史的建造物の保全・活用を含む都市デザインに関するワークショップ等を実施

○京町家の保全・継承の取組の効果を高める施策 1,800万円

建築基準法の適用除外に係る包括同意基準の拡充や、新築京町家の基準の検討等

7 充実 “京都を彩る建物や庭園” 助成制度の充実

2,000万円

“京都を彩る建物や庭園”制度により、認定や選定を行った未指定文化財等について、助成制度を充実し、活用・公開を促進

産業・観光と文化の連携

8 京都・パリ友情盟約締結60周年の機会を捉えた取組

- ・ **新規** 京都・パリ友情盟約締結60周年記念事業 6,100万円

京都市内において、パリの文化を紹介する事業等のほか、パリ市内において日本の文化や京都の伝統・技術を活かした商品・素材など多彩な魅力を発信することで、文化・経済・観光などの様々な分野で両市の交流を促進

＜京都市で開催する事業＞

パリの文化紹介事業、パリの若手アーティストとの交流

＜パリ市で開催する事業＞

60周年記念式典（能とファッションを融合させたショーなど）

京都知恵ビジネスメッセ in PARIS（京都商工会議所と共同開催）

- ・ **新規** 「京都×パリ」京ものアート市場開拓支援事業 2,900万円

京都・パリ両市の職人・アーティストが共同で商品開発を行い、フランスを中心とするアート市場をターゲットとした展示商談会へ出展

- ・ **新規** 「障害者芸術」の活性化と魅力発信【再掲】 1,000万円

9 京都の伝統文化を支える伝統産業の更なる振興

- ・ **新規** 京都伝統産業ふれあい館リニューアル事業
債務負担設定（③⑩～③⑪）2億6,500万円）

伝統産業製品の需要拡大・伝統産業の担い手育成に向け、京都伝統産業ふれあい館の更なる魅力向上や伝統産業製品の販売促進機能の強化を図るためのリニューアルを実施

- ・ **新規** 京都MICEブランド・コンテンツ強化事業
1,000万円

伝統産業製品を活用した「MICE開催に必要な物品の貸出し制度」の導入や、京都ならではの文化を取り入れたエクスカージョン（体験・見学）メニューの開発

- 10 **充実** 二条城の保存・活用推進 2億400万円

文化財の保存と活用のモデルとなることを目指し、有識者からなる「二条城の価値を活かし未来を創造する会」からの提案等を踏まえ、二条城の保存・活用を推進し、その価値を将来にわたり受け継いでいくため、ガイドブック作成、未公開文化財の整備、外堀石垣景観整備等を実施